

グループホームあいある石山
(別紙4-1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502496		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホームあいある石山		
所在地	〒005-0842 札幌市南区石山2条4丁目1-50		
自己評価作成日	平成26年2月17日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0170502496-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念でもある、「私たちは利用者様個々の生活を尊重し、自分らしく笑顔で安心して暮らせる環境を作り、地域に根ざし、温かい福祉社会の実現を目指します。」を念頭に置きながら、一人一人に合う個別の自立支援方法を常に意識しながら、各入居者様、各ユニット、各職員の個性・特性を反映できる生活を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の、交通量の多いバス通り沿いにある2階建て2ユニットのグループホームである。大きなお寺が隣接し、消防署や小学校、商店なども近くにあり便利な環境となっている。室内は清潔で、段差が少なく、エレベーターが設置され、トイレや浴室も使いやすく造られている。共用空間は広く、利用者はソファでゆっくりとくつろぐことができる。居間の窓からは裏の緑地や小川、畑が見え、壁には手造りの切り絵やホーム便りなどを飾り、親しみやすい雰囲気を作っている。職員は利用者一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、穏やかにやさしく利用者に接している。居室も、利用者一人ひとりの個性を反映した居心地のよい部屋作りがなされている。職員同士がお互いに意見を言いやすく協力的な関係を築いており、利用者は安心して過ごすことができる。運営法人が複数のグループホームや小規模多機能型事業所を経営しているため、マニュアルや書類が整備されている。医療支援の面でも、かかりつけ医への通院支援や看護師の配置などの面で充実を図り、利用者や家族の安心につながっている。また、管理者が地域との関係づくりや記録類の整備、外出支援などサービスの改善に向けて意欲的に取り組んでいるのも特徴である。

V. サービスの成果に関する項目(1階大地 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念・指針を眼にできる場所に掲げ、実際のサービスとして提供出来るように努力している。	法人共通の理念の中で「地域に根ざし、温かい福祉社会の実現を目指す」とし、共通の指針には「地域に貢献する」という内容を掲げている。また、事業所独自の介護指針も作っている。理念や指針を朝礼時に唱和し、共有を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣のお寺での盆踊りや、地域の夏祭りに参加させて頂いています。	町内会の盆踊りや夏祭りに参加しているが、地域の住民やボランティア、子供達などが事業所を訪れて交流することは少ない。	事業所として地域の方が参加できる行事を企画して招待したり、ボランティアや子供たちが事業所を訪れて交流することができるよう、積極的な取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まれだが、電話にて石山に入居希望されていた方に助言をしたがあり、相談者から感謝のFAXが届いた事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、ご家族様の参加が乏しい為、今年度の目標にも参加を促す工夫を掲げている。	運営推進会議は年6回開催され、地域包括支援センター職員、町内会長、利用者などが参加しているが、家族の参加は少ない。家族に会議の案内や議事録の送付を始めたところである。	年間を通じて毎回の会議テーマを設定して案内し家族の参加を促すとともに、参加できない場合でも事前に意見を聞いて会議に反映することを期待したい。また、サービス評価の取り組み状況を会議で話し合うことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	記録の保存方法など電話にて確認して、都度相談に乗ってもらっている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報を得ている。また、書類作成の疑問点などを区の担当者に電話で相談している。職員数名が認知症サポーター養成講座研修講師の取り組みを始めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束に対しての禁止を訴え、利用者の安全を第一に考え取り組んでいる。	身体拘束に関わる具体的な禁止行為を記したマニュアルを整備しミーティングで確認している。今後は身体拘束に関する勉強会を企画している。玄関は日中は施錠しておらず職員が、利用者の出入りに気を配っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員で日々お互いの介護について見直し、ミーティング他などを設けている。		

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では行なえていないため、今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	基本、契約などは管理者が対応する事となっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から意見などがあった場合には、個別にてお話を聞くなどの対応を行ない、反映できるよう努めている。	家族の面会時に意見を聞き、得られた意見を申し送りノートで共有している。また、毎月「あいある石山通信」を作成し、家族に送付している。	家族との話し合いや家族の意見について、利用者ごとの連絡ノートに時系列に記載し、職員間で確実に共有することを期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な管理者会議において、都度、運営・経営方針の見直しを行なっている。	月1回のミーティングで、職員同士、活発な意見交換が行われ、管理者と職員の随時の話し合いもある。また、半年ごとに法人の個人面談もある。職員はそれぞれ、物品管理や環境、食事、教育、アクティビティなどの委員会に所属し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により、職員の目標を明確にし、モチベーションアップ、役割意識を持ってもらう事により、やりがいへと繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後、毎月1回職員研修を行ない、実践をまじえた研修を行なっていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自ら田事業所と連絡を取り合ったりしていたり、個々のつながりで情報交換を行なっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の意志を傾聴し、安心して生活してもらえるように日々努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話などで連絡を取り合い、不安なこと、要望に応えるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に必要な事は何かを考えながら相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来る範囲で利用者様と一緒にこなしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と情報の連携を図り、利用者様、ご家族様の要望を聞き、関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様やご家族様の思いを聞き、馴染みの物、人、場所など大切に頂くよう努めている。	友人や知人が来訪する方が2名ほどおり、歓迎している。家族の支援のもと個別の理美容院を利用する方もいる。希望に応じて衣料品などの買い物支援も行っており、今後も利用者の希望を幅広く反映する方針としている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が関わり合えるように、お茶の時間を作り、話題づくりを提供し、支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられた方の告別式、お通夜などの列席をさせていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送り、ミーティング時に職員で情報の共有をし、都度検討・対応している。	概ね8割程度の利用者が思いや意向を表現でき、難しい方の場合も身振りやしぐさから把握している。センター方式のアセスメントシートを全利用者について昨年整備し、課題分析シートの作成も順次進めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の情報をもとに、センター方式を用いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントを通じて把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に、個別のカンファレンス時間を設け、ケアマネージャー、スタッフ皆でモニタリングを行ない作成しています。	介護計画は利用開始時は2か月、その後は6か月毎に見直し、状態変化がある場合は随時の更新も行っている。ミーティングで職員の意見を集約し、更新している。一方、介護計画の目標に沿った支援経過記録の記載は十分といえない。	日々の支援経過記録の作成において、計画目標の項目に沿った記録を全職員が継続的に行えるよう、取り組みを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録・書き方に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員の意見が反映し、マンネリ化を極力防いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各入居者様に合った、サービスの提供を心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療先の訪問診療を利用されている方もおり、連携は取れている。	提携医療機関による2週に1度の往診を受けており、その他のかかりつけ医の受診も概ね事業所で送迎している。また、非常勤職員として看護師を配置している。受診内容は、個人ごとの「受診ノート」に記録し、情報を共有している。	

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の出勤時に、常に情報交換を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には相談員、看護師と情報交換を行ないながら、早急に対応できるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で、同意書を用い説明している。	利用開始時に「重度化した場合における対応にかかわる指針および同意書」を説明し、書類を取り交わしている。過去に看取りの実績はなく、医療行為が必要な場合には事業所での看取りは難しい旨を説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに日々の情報共有の中で想定を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1回避難訓練を実施し、ご利用者様、地域住民、消防職員の協力を得て行なっている。	年2回、夜間を想定した避難訓練を消防署の協力のもと行っており、災害時の備蓄品も用意している。一方、避難訓練に地域の方の参加は得られておらず、職員の救急救命訓練の受講も一部にとどまっている。	避難訓練に地域の方の参加を得るなど、地域との協力体制づくりを期待したい。また、全職員の救急救命訓練の定期的な受講と、地震等、火災以外の災害時の対応について定期的に確認することを期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月ケアカンファレンスを行ない、職員同士での情報を共有し、努めている。	利用者への呼びかけは、名字か名前に「さん」付けを基本としている。職員の入社時には「職員ハンドブック」で、挨拶の基本や言葉遣いを教育しており、今後は、接遇研修も企画中である。個人情報スタッフルームで安全に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を聞き、その時の容態にあった声掛けを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様に合った生活をして頂く為、その日の体調に合った声掛けや、利用者様の気持ちを尊重した支援を努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に洋服などはご自身で決めて頂き、整容なども出来ることは行なって頂くよう努めている。		

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(1階 大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は職員とご利用者様と一緒にし、準備・片付けはできる範囲で一緒に行なっている。	法人の管理栄養士が立てた献立で食材は業者に配達を依頼しているが、誕生会の食事や月曜の夕食については利用者の好みを反映させている。調理の下ごしらえ、味見、下膳などを職員と利用者が一緒に行い、事業所の畑で収穫した野菜も食膳に上り、外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の立てた献立表を元に、それぞれに合わせた量や食事形態の工夫を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に対応して口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて声掛け・誘導を行ない、失敗を最小限に抑えている。	トイレ誘導の必要な利用者は約3分の1であり、「個別生活記録チェック表」を基に声かけし、日中は全員がトイレで排泄できるように支援している。トイレ誘導の際は「お散歩にでも行きませんか」等、周囲に悟られないように声かけしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人に合わせた下剤の服用、看護師による浣腸を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回入浴日を決めて、その日に入れない時など要望聞き対応している。	日曜日以外の15時～17時の時間帯に週2回を基本に入浴している。入浴拒否がある場合は、日程をずらすなどで対応している。入浴剤も種類を揃え楽しさを演出している。2人介助、同性介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容すべて把握し、どのような症状が出るなどきちんと理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味等に合わせたレクリエーションとう心掛けている。		

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階 大地)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人のきぼうを第一に考え、散歩や外出レクなど外に出かけられる機会を作っている。	天候の良い時期には、広い裏庭や隣接した寺院を散歩したり、滝野霊園、エドウィン・ダン記念公園等へのドライブを楽しんでいる。外出行事では、お花見や紅葉狩り、外食などを楽しんでいるが、冬場の外出は少ない。	天候の良い日は、窓を開けて外気浴をしたり、車で大型ショッピングセンターへの買物や食事、個別の買物支援など、冬場でも戸外へ出る工夫を期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(全てではないが)個人で管理している方も折、時折、外の自動販売機で購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人の希望に応じて使用して頂いている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物など季節や行事に合った物を使用し、環境面では、ご利用者様の希望に応じた照明の明るさなど考慮している。	建物全体が広々として、掃除が行き届き清潔である。居間の窓は大きくて明るく椅子が随所に配置されている。窓からは小川も眺められ、ゆったりとした時間が流れている。壁には職員のきり絵作品が飾られ、鉢植えの植物も配置され居心地良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様が独りにならないよう全スタッフが意識を持ち、レク・会話など行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人希望に応じた部屋のレイアウトや思い出の物を使用いて頂くよう心掛けている。	居室入口には、職員の手造りの表札が掲げられ、利用者の使い慣れた調度品が持ち込まれ、職員のきり絵の作品等も品よく飾られ居心地よく生活できる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れる為に、家事等できる範囲での活動を行って頂いている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170502496		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホームあいある石山		
所在地	〒005-0842 札幌市南区石山2条4丁目1-50		
自己評価作成日	平成26年2月17日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigrosyoCd=0170502496-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 大地ユニット」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(2階大空 アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 大空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着 型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で、理念を唱和し実際のサービスとして提供出来るよう、取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣のお寺での盆踊りや、地域の夏祭りに参加させて頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まれだが、電話にて石山に入居希望されていた方に助言をしたがあり、相談者から感謝のFAXが届いた事もある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、ご家族様の参加が乏しい為、今年度の目標にも参加を促す工夫を掲げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	記録の保存方法など電話にて確認して、都度相談に乗ってもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠を行ない、日中はオープンにしています。見守り・見回りを充分に行ない、拘束のないケアを実施しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各月のミーティングにおいても、都度確認して職員には意識をしてもらっている。		

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 大空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在では行なえていないため、今後の課題です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	基本、契約などは管理者が対応する事となっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様から意見などがあった場合には、個別にてお話を聞くなどの対応を行ない、反映できるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な管理者会議において、都度、運営・経営方針の見直しを行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により、職員の目標を明確にし、モチベーションアップ、役割意識を持ってもらう事により、やりがいへと繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に関しては、オリエンテーションの実施、OJT担当を付け、毎日の振り返りの中で不安・悩みを解消するよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南区のGH管理者連絡会や、研修などで連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 大空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意見・要望を傾聴し、知り得た情報は、スタッフ間に周知し、より安心して暮らして頂けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントを行ない、要望の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話、あいある通信で、日頃の様子を伝え、利用者にとって、良い支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	台所仕事など一緒に行ない、役割を持ってもらっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者、家族と信頼関係を築き、情報の共有を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時は、馴染みの家具を持ってきている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食後の片付けを当番制として、役割分担を持つことで互いに協力し合ったり、ゲームや談話等をして、居室に一人でいる時間を少なく、皆で過ごすよう心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 大空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様に了承を得て、面会に行ったりしているケースもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の申し送り、ミーティング時に職員で情報の共有をし、都度検討・対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の情報をもとに、センター方式を用いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のアセスメントを通じて把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に、個別のカンファレンス時間を設け、ケアマネージャー、スタッフ皆でモニタリングを行ない作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録・書き方に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各職員の意見が反映し、マンネリ化を極力防いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各入居者様に合った、サービスの提供を心掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療先の訪問診療を利用されている方もおり、連携は取れている。		

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 大空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が休日中の受診や、特変事項は、必ず報告し、情報交換を行なっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時には相談員、看護師と情報交換を行ないながら、早急に対応できるよう心掛けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で、同意書を用い説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに日々の情報共有の中で想定を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一度、消防訓練を実施している。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に合った言葉の種類・大きさの声掛けを努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事に関しても、乗り気でないときや、気分が乗らないときには、無理強いせず臨機応変で取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お部屋で過ごしたい方に関しては、今にきてもらうなどの強制はせず、見守りの中で個別の時間の確保に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア、入浴後、外出前などは身だしなみに気を付け、支援を行なってます。		

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階 大空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し、食べやすく、盛り付けを工夫している。食後の片付けを当番制にして、片寄りのないようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各人に合わせた量や、形態、介助の程度等、スタッフ間で周知し、支援している。一度に水分が取れない場合には、少しずつ、数回に分けて提供する等している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行なっていないが、提起的に訪問歯科診療を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗がへる様に、時間把握しながら、声掛け・トイレ誘導を行なってます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、ヨーグルトや牛乳を飲んでもらう等、予防に取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別の声掛けの中で、希望の時間に沿って時間を早めて入浴を行なった事もある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車イスの方には、同一姿勢にならないよう、イスやソファーに移動したり、臥床して頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化に応じ、薬の内容変更等、医師とも相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その日その日で家事の当番が変わってもらうなど、メリハリが出来るように、工夫している。		

グループホームあいある石山

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(2階 大空)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時期にあった場所(紅葉ドライブや、外食)に出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金管理は、概ね職員による事が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望や訴えが無いため、現在では行なっていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にて、季節に合った装飾品などを		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様自ら一人での過ごし方や、入居者通しが話し合う場面などがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を配置し、適度な空間も作り、安全に心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋などに、名前・名称を掲示しており、分かり易い環境作りに勤めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあいある石山

作成日：平成 26年 3月 24日

市町村受理日：平成 26年 3月 31日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	事業所と地域との付き合い	町内会の盆踊り・夏祭りなどへの参加を継続しながら、そこで作られる関係性を元に、事業所での催し物や消防訓練、日常時におけるボランティアなど、近隣住民様・ご家族様の参加人数を増やし、地域の住民である事を意識する。	近隣小学校との連携・協力により小学校との関わりを設ける。事業所独自の催し者や、外部ボランティアなどの積極的な導入。町内の催し物への参加など。	1～2年
2	4	運営推進会議を活かした取り組み	ご家族様・近隣住民様に対して、GHの現況を理解して頂き、協力体制を強化した上で会議の内容などの充実を図る。	事業所職員だけではなく、外部からの参加者を募ったり、消防訓練や、実際に共に活動・思考などが出来る参加型の会議を設定する事により、従来の報告的な集まり、受身的な会議を解消する。	6か月
3	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映	ご家族様や、基本である入居者様からの直接的な声を受け入れ、職員で情報を共有した上で、運営やケアに反映する。	各入居者様、各御家族様、又は個別の記録などを設け、個別のニーズ・訴えを把握し、問題に対しては、早期発見、早期解決を心掛ける。	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。